

FD フォーラム「アクティブ・ラーニングの組織的な取り組み」 ～社会学部・経済学部・国際学部の事例紹介～

日 時：2013年10月30日(水) 17:00～18:30

場 所：関西学院会館 光の間

開 会 の 辞

村 田 治（関西学院大学 高等教育推進センター長）

高等教育推進センターでは、今年のFD活動の主題として、アクティブ・ラーニングを掲げており、去る10月2日に神戸三田キャンパスのアカデミックコモンズにおいて、アクティブ・ラーニングの講演会を開催致しました。今回は、西宮上ヶ原キャンパスで、学部におけるアクティブ・ラーニングの組織的な取り組みというテーマで、FDフォーラムを開催させていただくことになりました。

実は、関西学院大学は三十数年も前からこのアクティブ・ラーニングを中心とした授業やカリキュラムを組んできました。本日発表していただきますように、各ゼミナールや研究室での取り組みが、まさにアクティブ・ラーニングであり、そのアクティブ・ラーニングの取り組みを、学部内で共有するだけでなく、他学部の先生方にも参考にしていただく機会を設けたいと考えておりました。

特にここ数年来、アクティブ・ラーニングという言葉が非常に普及してきており、その背景には、学部教育が一体どうあるべきか、具体的には、専門知識だけで良いのか、それともポローニャプロセスにあるキー・コンピテンシーのような汎用性能力の習得が必要なのかといった基本的な発想から、このアクティブ・ラーニングという言葉が出てきたものと理解しています。そういった意味では、関西学院大学では、ゼミナール教育、少人数教育を通じてアクティブ・ラーニングを実施していると考えております。

少人数教育という言葉を出しましたが、20人のレベルで少人数なのかというご意見もあるかと思えます。例えば国立大学は5人程度でゼミ教育が行われると思いますが、逆に20人、25人であることによって、ひとつのソサエティーができ、そこから色々な人と交わって、自分と異なった人を知り、そこでお互いに共感すべきところ、意見を言うという形ができてくるのではないかと考えております。そういうことから、関西学院大学のような規模で20人、25人の少人数のゼミをしていくということが、実は本当の意味でアクティブ・ラーニングだと思っております。こういったゼミナールをさらに強化をしていく、またさらにいい面を伸ばしていくという意味でも、今日のこの機会を教職員で共有し、さらに育て上げていきたいと考えております。

今日ご発表いただきます、大岡先生、栗田先生、宮田先生、本当にありがとうございます。よろしくお願ひ致します。